

イニシアティブ国内留学報告書

高分子反応化学研究室 D2 松平 崇

2006年3月29日～30日にかけて、東京理科大学理学部化学科山村研究室に国内留学を行った。留学先の研究室において、実験風景の見学、研究内容の説明、及び各種測定機器等についての説明を受けた。また、研究室見学の後、自身の研究を小野田氏に発表し、意見、指摘を頂いた。

当該研究室の、小野田晃 助手により説明を受けた分析機器は NMR、質量、元素分析、可視紫外、赤外、ラマン吸収スペクトル、ペプチド自動合成装置、グローブボックス、X線結晶構造解析、旋光度計、分子動力学計算用のスーパーコンピュータ(モンテカルロ)等、多岐に渡る。これらの中には本学に存在する機器も多いが、機種によりスペックや測定手法等が異なることを学んだ。例えば、低温 NMR スペクトル測定において、プローブを配管の液体窒素で直接冷やす手法があることを知ることができた。また、本学では技官に担当して頂いている元素分析も、東京理科大学では学生が測定を行うため、普段ふれる機会のない装置の仕組みを学ぶことができた。